

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	医療機関から赤色灯を点灯させて帰署している時に信号機交差点でバイクと接触事故になりそうであった事例。
3. 体験した事例の中心的要素	救急搬送し、医療機関から帰署する際、緊急車両が走行していると住民に認識してもらうため、現在赤色灯を点灯させ走行しています。通常走行している際(赤色灯を点灯させた状態)、交差点内の右折レーンで信号待ちをしていると、対向車線から走行してきたバスが、救急車の前で停車し、先を譲ってくれました。おそらくバスの運転手が緊急出向中と誤ったものだと思います、私は右折しようと走行を続けると、バスの脇から二輪車が交差点を直進通過してきたため、接触してしまいそうになりました。
4. 体験した事例の原因・理由	近年の車は機密性が高く音楽やラジオを着けることでサイレンの音は聞こえづらく、緊急車両の存在に気付く方法として、赤色灯前照灯が手段となります。赤色灯を点灯させ、更に夜間になれば前照灯も点灯する事は、緊急走行時との区別が付き判断が困難だと思います。通常走行しているにもかかわらず、一般車両を停車させてしまうなど、住民の方が戸惑いを感じている面が多々見受けられます。また今回の事案では大型バスが先頭車両となり後続車両やバスの脇にも死角ができバイクの発見に遅れたことも要因のひとつであると考えます。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年9月20日 午後6時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：交通量の多い信号機のある交差点
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急帰署途中、[]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：病院から帰署中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	1年に数度程度の割合で体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[32]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長] 同様の活動[頻繁]、任務[車長]
○当事者B	年齢[28]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動[頻繁]、任務[隊員]
○当事者C	年齢[27]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[9]年、階級[消防士長] 同様の活動[頻繁]、任務[機関員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	帰署時の赤色灯点灯を指示し走行する。	
経過2	当事者C	交差点を青で進入し右折しようとする	
経過3	経過2の続き	対向車の通過を交差点中央で待機。	
経過4	当事者A	バスの停車、進路を譲ってくれたと判断。	
経過5	当事者A	当事者Cに気をつけて走行するよう指示。	
経過6	当事者A	バスの脇からバイクが走行してきた事を確認。	
経過7	当事者C	衝突回避のため急ブレーキ。	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



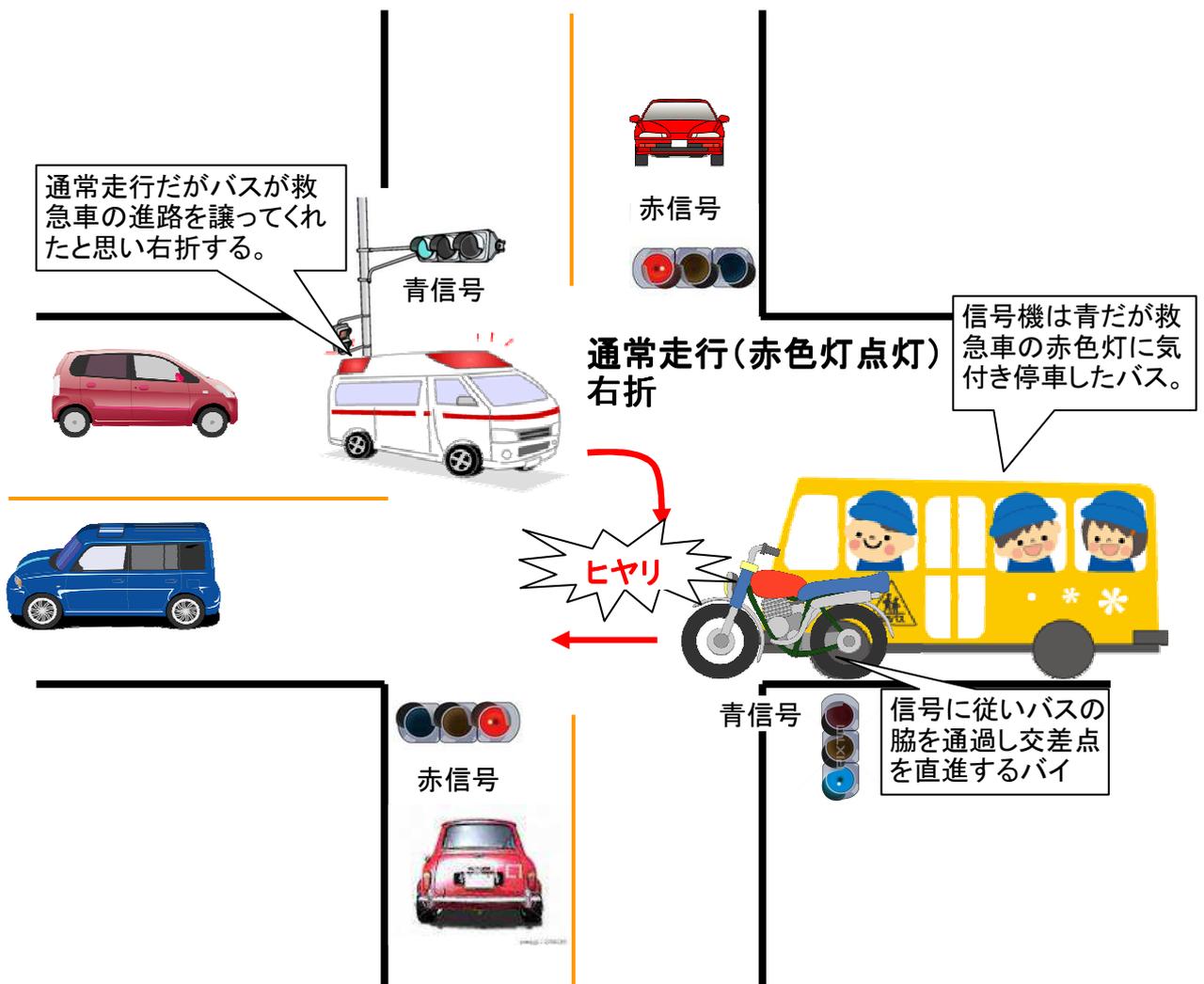
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

ヒヤリハット発生状況



救急搬送し、医療機関から帰署する際、緊急車両が走行していると住民に認識してもらうため、現在赤色灯を点灯させ走行してます。通常走行している際(赤色灯を点灯させた状態)、交差点内の右折レーンで信号待ちをしていると、対向車線から走行してきたバスが、救急車の前で停車し、先を譲ってくれました。おそらくバスの運転手が緊急出向中と誤ったものだと思います。私は右折しようと走行を続けると、バスの脇から二輪車が交差点を直進通過してきたため、接触してしまいそうになりました。